

かでな振興自主防犯パトロール隊（沖縄県）



ちゅらさん運動で築く安全・安心嘉手納町！

平均 33 歳の若手従業員による創意工夫を凝らした防犯まちづくり

1 活動地域の概要

嘉手納町は、沖縄本島の中部に位置し、人口約 1 万 5,000 人、約 5,000 世帯の町です。町内には水釜海岸や屋良城址公園、兼久海浜公園などの公共施設がありますが、落書きや設備の破損が放置され、浮浪者がたむろする等、子ども達が安心して遊ぶことができなくなりました。

2 団体の概要

(1) 結成の経緯

「かでな振興自主防犯パトロール隊」は、町内においてゴミ回収、清掃業、ビル管理等のサービス業を行っているかでな振興株式会社の社員で構成し、子どもの頃に遊んだきれいで楽しかった公園を取り戻し、子どもやお年寄りをはじめ、地域住民が安全に暮らせる環境をつくろうという思いで結成しました。

(2) 構成員等

隊員 12 名（平均年齢 33 歳）

青色回転灯装備車両（以下「青パト」といいます。） 4 台

(3) 活動時間帯

就業前や昼休み、そして勤務終了後等、業務に支障がないよう時間を有効に活用しています。

また、就業中も、移動の際はなるべく小学校の通学路を通り、子どもの安全確保に配慮しています。

3 活動内容

(1) 町内の防犯パトロール活動及び子どもの見守り活動

オリジナルデザインのユニフォームを着装し、徒歩や青パトによる防犯パトロール小学校の通学路における児童の見守り活動を実施しています。

また、年金支給日には、金融機関に赴き、振り込め詐欺被害防止チラシの配布や声かけなどを通じて啓発活動を行っています。

(2) 防犯寸劇の上演

全国的に振り込め詐欺事件が多発したことを受け、町内のお年寄りが被害に遭わないようにするため、沖縄方言を交え、分かりやすく楽しみながら学べる防犯寸劇を上演しています。

「ちゅらさん笑劇団」と称して町内外の老人会や老人福祉施設を回り、上演後は、お年寄りと食事をともしてコミュニケーションを図っています。これまで8回上演していますが、防犯寸劇を開始して以降、町内で振り込め詐欺の被害は発生していません。

最近では、町外からの上演依頼も受けるようになり、また、子ども向けの不審者防犯対策の寸劇も始めています。

(3) 割れ窓理論を実践した防犯まちづくり

公園のトイレが落書きされたり、ドアが破損させられたりしていたため、その都度、落書きを消したり、修繕をしていましたが、それでもトイレの落書きや破損等が減りませんでした。そこで、トイレの手洗い場に造花を設置して美化への工夫をしたところ、落書きや破損が激減しました。

また、防犯パトロール中に通学路で草木が生い茂り周囲から死角となっている箇所を見つけた場合は、行政と相談し、樹木の剪定や草刈りを行い、割れ窓理論に基づく防犯環境の改善を行っています。

(4) ちゅらさん笑劇団ニュースの発行による情報発信

町内の方々にもっと防犯に関する意識を高めていただくことを目的に、隔月で「ちゅらさん笑劇団ニュース」を発行し、団体の活動内容等を情報発信しています。

今後は、地域安全情報も掲載していきたいと考えています。

(5) スキルアップのための勉強会の開催等

隊員の防犯活動に関するスキルアップを図るため、全員が県の主催する防犯リーダー養成講座「ちゅらうちなー安全・安心アカデミー」を修了しています。このアカデミー受講をきっかけに、落書き消しや造花の設置を始めました。

また、毎月2回、警察官や小学校のPTA会員等を講師に招き、防犯に関する知識の

研鑽を図るとともに、地域で問題になっていることについて、自分たちでどのようなことができるか勉強会を開催しています。ちゅらさん笑劇団も、この勉強会で思いついたアイデアです。

寸劇についても、お年寄り等の心に響くよう、プロの劇団から指導を受けたり、警察や新聞・テレビから入手した最新の振り込め詐欺の手口等を台本に盛り込むようにしたりして、演技力を磨いています。

4 安全・安心なまちを目指して

地域住民の願いである「安全・安心なまち」。それを実現するためには、警察の力だけでなく、「地域の安全は地域で守る」という地域住民の力、そして、企業も積極的な取り組みが必要であると考えています。

かでな振興自主防犯パトロール隊（沖縄県）

みなさん、こんにちは。「かでな振興自主防犯パトロール隊」の隊長仲本勝之と、団長の眞壁睦です。今日はよろしくお願いたします。

私たちパトロール隊は、12名が全員嘉手納町民で、勤め先も嘉手納町にあるかでな振興株式会社の社員であります。

それでは、「ちゅらさん運動で築く安全・安心な嘉手納町」というタイトルで私たちの活動を紹介します。



まちの紹介

嘉手納町は、沖縄本島の中部に位置し、人口は約1万5,000人、世帯数約5,000世帯の小さな町で、東シナ海に面する海岸沿いにあります。

東京から約1,500キロ、本日一番最初にプレゼンテーションを行った驚別こども見守りたいが活動している北海道登別市からは、約2,150キロ離れています。この時期でもまだ蝉が鳴いており、平日は半袖で過ごし、クーラーもまだまだ手放せず暑い毎日が続いています。

ちゅらさん運動とは

まず、最初に「ちゅらさん」という言葉について説明します。「ちゅらさん」とは沖縄の方言で「美しい」「清らか」という意味です。そこで、ちゅらさん運動とは何かと言いますと、県民や自治体、警察や学校が一体となって安全で安心な沖縄県を実現しようという運動です。内容は、青少年の健全育成を図る「ちゅらひとづくり」、公園や通学路等の安全・安心な環境を確保する「ちゅらまちづくり」、地域の連帯、沖縄の方言でいいますと「ゆいまーる」の再生を図る「ちゅらゆいづくり」から成っています。

私たちも、このちゅらさん運動の趣旨に賛同し、安全・安心な嘉手納町を築くために活動をしています。

嘉手納町の問題点

まず、嘉手納町の問題点についてご説明します。

町内には、水釜海岸の護岸や兼久海浜公園、屋良城址公園等の公共施設がありますが、落書きがされたままとなっていました。すると、不法投棄がされたり、トイレやイスなどの設備が壊されました。そのうち、ホームレスがたむろするようになり、子ども達が安心して遊べない、町の治安が悪くなるという悪循環が起きました。

また、住民も「嘉手納は安全」というイメージを持っているのですが、実際には空き巣や自転車盗などの身近な犯罪が発生しており、防犯意識が低いのが現状です。



これが公園のトイレに落書きされたり、不法投棄がされたり、ホームレスが住み着いている状況の写真です。

活動概要

私たち「かでな振興自主防犯パトロール隊」の概要についてご説明します。

子どもの頃に遊んだきれいで楽しかった公園を取り戻し、子ども達やお年寄り達が安全に暮らせる環境をつくらうという思いで、平成13年3月「かでな振興自主パトロール隊」を結成しました。12人の有志が賛同し、平均年齢は33歳と若いメンバーで活動しています。青色回転灯車両も現在は4台運用しています。

主な活動といたしましては、町内の防犯パトロール、ちゅらさん笑劇団の活動、割れ窓理論に基づいたちゅらまちづくり、少年の居場所づくり、スキルアップのための勉強会の開催などを行なっています。

それでは、順にご説明します。

町内の防犯パトロール

まず、町内の防犯パトロール活動についてご説明します。

活動に際しては、隊員一同自作の防犯ユニフォームを着用して活動しています。

子ども達の登下校の見守り活動として、登下校時間帯である午前7時30分から午前8時30分ころまで、出勤前のウォーキングやジョギングを兼ねた通学路の防犯パトロールを実施しています。

また、業務中も、ごみ回収車両など業務車両12台に防犯パトロール中のステッカーを貼付し、移動の際は、なるべく学校の通学路を通るなど、子どもの安全を念頭におきながら業務を行っています。



毎週金曜日には、業務が終了した午後6時から午後7時くらいまでの間、徒歩や4台の青色回転灯装備車両を活用し、町内の防犯パトロールを行っています。

年金支給日には、町内の金融機関に赴き、利用者に対して振り込め詐欺被害防止の声かけやチラシ配布を行っています。このときは、さすがに業務に支障がでることから、隊員は昼休み時間を活用しています。しかし、隊員からは誰からも文句を言う人はいません。

振り込め詐欺被害防止寸劇の上演

次に、振り込め詐欺被害防止寸劇の上演についてご説明します。

全国的に振り込め詐欺被害が急増し、その被害者の多くが高齢者であるという話を聞き、嘉手納町も比較のお年寄りが多い町であることから、町内から被害者を出さないためにはどうしたらよいかと隊員や所轄署の警察官と検討した結果、お年寄りに根強い人気である沖縄芝居をアレンジし、振り込め詐欺被害防止の寸劇を上演しようということになりました。

また、演劇の効果を高めるためにも、「ちゅらさん笑劇団」という名前を付けました。

ストーリーは、息子になりすました詐欺師グループが、お年寄りの家庭に電話し、対応したおじいさんがすっかり騙されて銀行へ振り込みに行っている間に、おばあさんが警察に相談したところ、振り込め詐欺と思われることがわかり、警察官が銀行へかけつけて、間一髪、被害から免れたという設定です。

見学者にも、単に演劇を見てもらうだけでなく、振り込め詐欺からの電話を受けたときの対応方法を体験してもらう等の訓練をしています。

また、上演終了後には見学者のお年寄り方の誕生会に参加したり、食事を共にしたりして交流を図っています。

これまで、嘉手納町内外で約10回くらい上演していますが、更に演技力を磨くために、プロの劇団に出向いて指導を受けています。沖縄芝居の大家であり、NHK朝の連続ドラマ「ちゅらさん」でおばあ役を演じていた平良トミさんから指導を受けています。

練習や台本、大道具の作製は業務終了後や昼休みを活用し、練習場所は会社の



倉庫を使用させてもらっています。

演劇など、やったことのない隊員達ですが、一人ひとりなりきって演じています。

例えば、この好青年がどのように変わるかといいますと・・・。

この顔、実はここでパソコン操作をしている真壁本人です。



ちゅらさん笑劇団の活動も、徐々に町内に浸透し、町内の小学校から防犯寸劇の依頼を受けるようになり、小学校の不審者侵入訓練の授業に参加して不審者役を演じたり、いかのおすし等の指導を行っています。

町内への防犯情報の発信

また、町内の方々に、もっと防犯に関する意識を高めていただくことを目的に「ちゅらさん小劇団ニュース」を今年の5月から発行し始めました。内容は、パトロール隊の活動や町内の身近な犯罪の発生などを掲載しています。

割れ窓理論の実践による美しいまちづくり

割れ窓理論の実践による美しいまちづくり、方言で言いますと「ちゅらまちづくり」についてご説明します。

毎月第3木曜日、嘉手納町、嘉手納警察署員等の関係者と町内の公園パトロールを行い、遊具や壊れた電球の点検、浮浪者の排除などを行っています。また浮浪者がいた場合は、積極的に声かけをして、住民が怖がるので公園から移動してもらうようお願いしております。公園を管理している役場の担当課にも、一緒に合同パトロールに参加してもらったところ、浮浪者がたむろしている状況の対策として、橋の下に入れないうフェンスを設置してくれました。現在この場所に浮浪者は一人もいなくなりました。

また、パトロールの際に落書きを見つけた場合は、管理者の了解の下、見つけ次第すぐに消しています。落書きを放置していると、その場所からまちの治安が悪くなるという割れ窓理論に基づいて行動を起こしました。平成19年から落書き消しを始め、当初は年間30回くらい行っていましたが、平成21年は1回しか落書きは見られなくなりました。



落書きの他に、トイレのドアの破損やトイレトペーパーの盗難も多く、その都度修繕していました。何か手だてはないものかと思案していたところ、花を植えたら不法投棄や空き巣がなくなったという例をヒントに、トイレに造花を設置しました。造花を設置したところ、破損は激減しました

通学路で、草木が生い茂り、周囲から死角となっている箇所を見つけた場合は、行政や学校と相談して樹木の剪定、草刈りを行っています。草刈りの道具やトラックなどは、会社から借りています。

写真は、嘉手納小学校の通学路ですが、プランターの花壇だけで寂しかったので、小学校の了解を得て花壇を設置しました。

基本的には私たちで行っていますが、学校のPTAを巻き込んで一緒に行ったこともあります。



スキルアップに向けた勉強会

スキルアップに向けた勉強会についてご説明します。

沖縄県では、平成17年から地域の防犯リーダー養成講座「ちゅうちなー安全・安心アカデミー」を開催しておりますが、私達12名、全員この講座を受講しております。

また、昨年は講師として招かれ、活動事例を紹介しました。

また、月2回、警察官や会員の中にいる警備員指導教育責任者、学校の教員や保護者等を講師に招き、防犯に関する知識の研究、地域で問題となっていることについて、自分たちでどのようなことができるかということ話し合っています。また、終了後の懇親会も、楽しみのうちの一つです。もちろん、飲酒運転はしませんし、させません。

このようなざっくばらんなときに意外と面白いアイデアが浮かぶもので、ちゅうさん笑劇団の結成もそのうちの一つです。



少年の立ち直りに向けた居場所づくりの活動について

少年の立ち直りに向けた居場所づくりの活動についてご説明します。

青少年の居場所づくりの一環として、非行少年や不登校の中学生を対象に草木の寄せ植えを指導しています。

生徒の作品も、指導当初は大雑把な作品が多かったのですが、徐々に落ち着いた作品へと変化していくとともに、指導を受けた少年が非行行為をやめたり、不登校生徒が学校へ通う

ようになるなど、少年の立ち直りにつながりました。

防犯活動の活性化

地域の防犯意識の高揚を目的として、町内出身の民謡歌手によるライブや、県内で横綱となった闘牛を活用した防犯イベント、町内の他の防犯ボランティア団体との合同出発式などを開催し、活性化を図っています。

すべての地域住民の願いである「安全・安心なまち」、それは警察の力だけでなく、「地域の安全は地域で守る」という地域住民の防犯意識の高揚を図るとともに、企業も積極的に地域防犯活動に取り組んでいき、マスコミ等も巻き込んだ効果的な防犯活動を継続していくことが「安全・安心なまち」につながると思います。

以上で「かでな振興自主防犯パトロール隊」の発表を終わります。

防犯活動の活性化



とるるんてんライブ



安全なまちづくり推進号(古堅モータース号)



嘉手納町キャラクター「イモチ」



ヤクルトレディース自主防犯パトロール隊

司会 企業に勤めるいわゆる現役世代が活動しているという点が特徴だと思います。今後更に防犯ボランティア活動を活性化していくためには、先ほどの学生ですとか企業の現役世代、この方々の参加が必要不可欠だと思います。

何か質問はございますでしょうか？

質問 少年の居場所づくりで、いわゆる非行少年に話しかけるきっかけとはどのようなものでしょうか？ポイント、要領を教えてくださいませんか？

回答 私たちは、防犯団体という枠を超えて、生まれも育ちも職場も嘉手納町なのです。ですから地域の子供たちというのは、みんなで守らなくてはならない。僕らは、地域の「お兄ちゃん」的な存在であるように、自分の兄弟に話すような努力をしています。中には反発する子どももおりますが、長い間声をかけているうちに「なんだ、あそこのお

兄ちゃんか。」「家はあそこか。」「あの人の弟は僕の知り合いだよ。」と、こういったつながりを探して行って、今の活動につながっています。

質問 我々は、年配者が多くどうしても「押し付け」「諭す」ことが多くなりますが、そちらの団体でも年配者も声かけなどやっていますか？

回答 団体の構成員は、平均年齢は33歳ですが最年長は62歳でありまして、その方からも意見を聞き、調和したものを探り活動しています。若い人だけの考えだけでなく、諸先輩の意見も聞きながら活動しています。

質問 公園のトイレの落書きを消されたり、ドアの修理をおこなう経費などはどのようにしていますか。

回答 本来は、役場で行なうことですので、役場に折衝いたしましたが、予算を取ってからの話でした。ですが僕らは、ペンキ代だけ持っていただいて、「僕らが時間外に消すので、ペンキ代だけ持ってください。」ということで、資材、作業はこちらでまかかっております。ですから迅速に消すということができるようになりました。

質問 会社で活動していますが、社員15名のうち12名が隊員なのでしょうか？

回答 会社全体ではパートも含め100名ほどおります。

質問 会社の社長さんは、どのようにお考えなのでしょうか？

回答 実は、その問題は長い時間悩みました。僕らがやっている活動を、「空いた時間があるなら営業しろ。」などと普通の社長であれば言うと思いますが、僕らは、「かでな振興」という会社の名前ですが、嘉手納町の「地域おこし」の意味もこめて「振興」と名づけた経緯があります。それで僕らが、「防犯も地域おこしの一環だよ。」「『安全・安心』が地域おこしの一環だ。」と切にお願いし、3年間説得いたしました。それで、納得いただきました。なぜ理解してもらったかと言いますと「あなたのところの従業員ががんばってるね。」「朝4時からパトロールしてたよ。」「夜9時にパトロールしてたよ。」などと言われるそうです。地域住民から声をかけられると社長さんって嬉しいんですね。これで段々と認めていただきましたが、一つだけ条件があります。業務に支障が出ないようにノルマは必ず果たしなさい。それで「やり繰りできるのであればがんばりなさい。」と、背中を押していただいています。今は感謝しております。

質問 年間色々な活動をしていると思いますが、何時の時間帯が多いでしょうか？

回答 先ほどお話ししたように、お昼の時間が多いです。休憩時間を短くしたり、残業したり、土曜日に振り替えしたり、がんばってやっています。